

平成22年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400049	事業の開始年月日	平成20年8月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	株式会社 保健科学研究所		
事業所名	グループホーム 本牧つばき園		
所在地	( 231-0823 ) 横浜市中区本牧大里町24-10		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果 市町村受理日	平成23年5月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★緑豊かな自然の中に囲まれ、平成20年8月1日に開所したホームです。いつでも皆様が明るく元気に安心して過ごして頂ける様に地域の皆様、御家族様と共に触れ合いを大切にしています。関係者皆様が家族との思いで、来所の際は『ただ今』ホームを離れる時は『行ってきます』をモットーにアットホームなつばき園＝第2の我が家作りを目指しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年3月11日	評価機関 評価決定日	平成23年4月26日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>  
◇利用者の希望に添う生活  
月1回は外食をするが、予め日取りは決めず、気持ちの良い晴天の朝に利用者職員が相談して出掛けている。また、入浴はフロア毎に日をずらし週3回を基本としているが、更に希望する場合は、別のフロアの入浴日に「銭湯に行こう」という出掛けることもあります。湯加減、入浴剤は各利用者の好みに応じている。  
◇利用者の馴染みの人々との交流継続の支援  
外出や外泊するとき、家族・友人が事業所まで来ることができない場合は、待合わせ場所まで送迎をしている。敬老会などの行事に家族が高齢で来訪できないときは、利用者の友人を招待するときもある。

<事業所が工夫している点>  
◇利用者と一緒に楽しむ生活  
外出行事などの内容を決めるときには、おやつの日などに「(事業所内の)町内会/婦人会」と称して利用者の意見を聞く機会を作っている。毎週水曜日の朝食はパンの日として前日に利用者好みのお菓子を買って出かけている。管理者が区役所担当課へ出向くとき、区の要請で受入れている利用者を同伴して、一緒に近況報告をしている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 本牧つばき園
ユニット名	はまなす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに理念を掲示している。地域に融合したホームを理念に唱えており、毎朝の申し送りの時、会議の時に唱和している。	・事業所理念として、「利用者の人格の尊重」と「地域に融合したホーム」を重要に考えている。 ・毎朝の2ユニット合同申し送りの中で理念を確認して、具現化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、縁日や行事に参加している。図書館を利用したり地域のお店に買い物へ行き近所の方々と挨拶や会話などを通じて繋がりを続けている。 近隣の小、中、高等学校との交流も深めている。	・町内会加入など地域との交流を積極的に実施している。 ・近隣の中高生が介護体験学習やボランティアとして楽器演奏、手縫い雑巾を届けなどで来訪し、主婦は朗読ボランティアで来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や職員の状況に応じて運営推進会議を始め職員会議などで地域に役立てる事はなにか何が出来るかを話し合い、取り組んでいる。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの質の向上を目指して意見や苦情をどの様にしていくのかを職員で話し合い次の会議にて報告をしている。年度始めに年間の日程とテーマを決め、関係者、利用者ご家族に配布し開催月にもご案内している。	・平成22年度は10月まで2か月毎に開催した。次回は3月に予定している。8月は食中毒をテーマにして事業所の取り組みを説明し、参加者からの意見を参考にしている。 ・出席した町内会長の紹介で、10月に地域防災訓練に参加して交流を深めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への連絡は主に管理者が行なっているが、ホーム便りを利用者様と届けたりして協力関係を築いている。	・中区役所へ毎月行き、近況を説明している。 ・その折、事業所運営などについて意見交換をし、指導・助言を得ている。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関係する資料やマニュアルが閲覧出来る様になっている。身体拘束はしていないが安全を守る意味で時間帯を決めてフローア入り口を施錠する事もある。毎月のユニット会議に於いて身体拘束に繋がっていないかなど確認し合っている。	・不審者侵入を契機に、玄関とフロア入口を施錠している。 ・外出希望の強い利用者には職員が事業所周囲の散歩に付添っている。	・不審者侵入防止対策と共に、利用者の行動見守り方法などを再検討されて、日中はフロア出入り口と玄関を解錠することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修などに参加し報告会を行なっている。毎月のユニット会議にて気を付けているかを話あっている。 新人職員のオリエンテーションプログラムにも取り入れ、虐待や身体拘束について説明し意識を高め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は全職員に至っていない。ケアマネージャーが中心になって関係者と話し合い反映している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書は利用者ご家族様と読み合わせを行い不安や疑問点について十分な説明をし理解頂けた上で署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、面会時や運営推進会議を通じて意見を出しやすい状況を設けている。出された意見はどうか対応したのかを次の推進会議で報告し反映させている。	・職員だけで行事内容を決めず、おやつや時間などに「町内会/婦人会」と称して、利用者の意見を引出している。 ・敬老会、クリスマス会などの家族来訪時や行事の後に、家族と懇談をして意見を聞き、運営に反映させている。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員の意見や提案を言える環境ができています。日中の業務の中でリーダーや、管理者が個別に意見を尋ねる事もある。	・平成22年度よりユニットリーダーの位置付けを明確にして、まずリーダーが職員の意見、要望を聞くことにした。 ・管理者は職員に対して気軽に声を掛けるなど、話やすい雰囲気を作って意見を聞きだしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての希望を叶える事は難しいが、管理者は定期的に職員に人事評価やヒヤリングを行い、毎年決められた月に昇格を行なっている。また実績によりパートから契約社員昇格制度、正月の特別手当などがある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○J Tにより一人ひとりの力量に合った職員の研修や指導を介護事業部全体として研修指導を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近くにあるグループホームとの交換実習を行ったり介護事業部の3つの施設との勉強会を含めサービスの向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から困っている事、何度も足を運んで頂きながら不安な事を傾聴し職員は情報を共有し安心の確保に努めている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から家族等の困っている事、不安な事に耳を傾け日々の生活の様子を毎月写真入のお便りにして、家族、職員の情報を共有して関係を築いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員同士でも相談しながらその時に必要な支援を出来る様な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを失う事無く明るく元気で自立した生活を送って頂けるよう、職員は喜怒哀楽を分かち合えるような関係作りを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を第一に考えサポート的な立場で共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊の制限は特になく友人や知人も馴染みの場所や関係が途切れないようにサポートしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の外出、外泊を支援するため、家族、友人との待合わせ場所まで職員が送迎支援をしている。</li> <li>・家族が高齢で事業所行事に来訪できないときは、利用者の友人を招くときもある。</li> </ul>	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し一人ひとりが孤立することなく支えあえるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した後もご家族様の承諾を得てホームの様子をお伝えしたり、近況をお手紙で頂いて相談や支援に努められた関係を断ち切らない取組みに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り一人ひとりの意思に添えるように支援を行っているが、困難な場合は何故困難なのかを納得して頂きなるべく思いや意向に近づけたサービスを提供を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の提案により、リネン交換やお茶の時間も利用して、積極的に利用者のお話を聴き、希望・意向の把握に努めている。</li> <li>・会話のなかで把握した内容は、申送りノートに記載して全員が共有している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス内容をコミュニケーションの中から把握し記録に残し情報を共有する事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録を活用し日頃からの状態の観察に努め一人ひとりの現状の把握に努めている。また毎月のカンファレンスにて情報交換を行っている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制をとり担当職員を中心に利用者の思いや意向の把握に努めユニット会議で話し合いプランを立てている。内容をご家族に説明し同意を得て署名と捺印を頂いている。	・介護計画は短期目標3か月、長期目標6か月で見直している。 ・見直しに当たっては、居室担当が原案を提案し、ユニット会議で協議・検討し、それには訪問看護師による毎週水曜日の健康チェック結果も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて実践結果、気づきを記入し、朝、夕の申し送りにて情報を共有し日々の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な面会、外出、外泊、メニューの変更などの柔軟なサービスの取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じてボランティア、消防、文化施設を活用し豊かな暮らしの支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診を希望する医療機関を確認している。家族の協力も得て受診対応して頂いている協力医療機関の医師による診療が月に2度、訪問看護師による健康チェックが週1回受けられるようになっている。	・契約時の説明で、利用者全員のかかりつけ医は月2回往診する事業所の協力医に切り替わっている。 ・従来からの病院へ通院するときは家族に付添をお願いしている。	



本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で看護師と利用者様との信頼関係が出来ており、職員と共に情報を共有する事で適切な看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを通じて日頃の生活状況や入院に至った経過を即日、医療機関に届け早期退院に向けて、ご家族・医師との相談をその都度行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『看取りに関する指針』を整え、契約時説明し署名、捺印の上交付している。現在まで終末期看取りを行うまでにならなかった利用者はいない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時に、医療連携体制に基づく同意書を取り交している。</li> <li>・これまで看取りの実施事例はない。実施するときは、事業所がどこまで出来るか個別に見極めて、職員への説明、研修を改めて行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看取り対応に向けて、職員への説明や研修の実施を期待します。</li> </ul>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルがある。職員の勉強会や消防職員・看護師による応急手当の方法などを学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間を想定した場合などの避難訓練を行っている。地域との協力体制を築きかけている所である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に消防署と協力し夜間想定避難訓練を実施した。3月には近隣の協力を初めて得て訓練を行う予定である。</li> <li>・外部評価調査日に東日本大地震に遭遇した。管理者の指揮のもと組織的に避難する様子を観察出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の大地震では組織的に避難をすることができましたが、新たな気づきもあったと思います。その観点で避難行動マニュアル、非常用食料の備蓄、備品の転倒防止などを見直すことを期待します。</li> </ul>

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応をしない様ユニット会議にて周知徹底している。	・言葉かけや接し方に注意を払い、入浴等の身体介護は本人の羞恥心に配慮した同性介助にも応じている。 ・個人情報書類はキャビネットに施錠保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの願いや思いを尊重しコミュニケーションの自己表現が出来る様に働きかけ自己決定が出来る様支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し買い物希望する利用者さんに付き添ったり、自分の居室をアトリエのようにして好きな時間に作品を作り楽しみの時間を過ごすなど、利用者一人ひとりに合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品道具を持っておられる方もおられ、スタッフもお手伝いしその都度その時にあったお洒落が出来る様支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は委託業者が作成したものであるが、時には外出に出かけたり、希望を募り餃子や焼きそばを作ったりお弁当を持ってドライブに出掛けるなどしている。利用者は職員と一緒に盛り付、配膳、食器洗いなど一緒にしている。	・利用者個々の能力を活かし、できる方には食事の準備、下膳、片づけをして貰い、職員と共に楽しく食事をしている。 ・月1回、利用者のリクエストをもとに外出を楽しんでいる。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の栄養士による献立がたてられており毎食ごとにバランスの取れた食事の提供ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を行って炒る。訪問歯科により定期的に口腔の状態を見て頂きケアの仕方など指導して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとり排泄表を用いて排泄パターンを把握し声掛けを行いトイレにて自立の排泄が出来る様支援を行い失敗しても自尊心を傷つけない声掛けを行いトイレ内にて着替えを行っている。	・職員は排泄チェック表の記録により各利用者の排泄リズムを把握し、誘導を行っている。 ・排泄の自立支援でリハビリパンツから失禁パンツへ替わった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多いものを食事の一部加えたり、おやつに乳製品を取り入れたり超を動かす為の運動など個々の排便パターンを把握し便秘の無いよう予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は行えていないが、菖蒲、ゆず、など季節を感じられる物を使ったり好みの入浴剤を入れたり個々に応じて入浴の支援を行っている。	・週3回、午後に入浴している。更に入浴したい場合は、他ユニットに出掛けて入浴することもある。 ・柚子、菖蒲湯や入浴剤を入れて、リラックスしながら入浴を楽しんでいる。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たい時に寝て頂けるにして頂いている。見守りの際室内の温度や湿度を調整し寝具の乱れを直している。和室で足を伸ばしたりソファを使って休息が出来るように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用、使用されている薬の内容、薬の管理から服薬の確認までのマニュアルが作成してあり実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前にも生活歴や嗜好品、趣味など情報を収集しているが日頃のコミュニケーションの中で個々の喜び、楽しみを把握しそれぞれに敵した役割があったり気分転換が出来る様支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課表はなく、その日、朝のお茶の時間に天気や体調を考慮して一人ひとりとはいかないが利用者と相談し外出、散歩が見守りのもと出来る様支援している。また家族、友人といつでも外出できるよう協力を得て支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日は、近所の公園などに散歩をしている。また家族や友人と買物や外食などにも出かけている。</li> <li>・事業所の駐車場で、簡単な運動を運動会に見立てて楽しんでいる</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお預かりし、管理しているが外出の際には希望やそれぞれの力に応じて、お財布を持ちお金を使える様支援している。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などのやり取りが自由に行えるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節の花を飾ったり、掲示物を貼り温度や換気に十分気を付け、加湿器も設置している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビング兼食堂の隣に和室があり、くつろげる空間になっている</li> <li>・壁には利用者が制作したちぎり絵や利用者手書きの献立表、カレンダー、行事の写真など貼られている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて過ごされたり和室のソファアを使ったり足を伸ばして会話ができたり思い思いの過ごし方が出来る様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家の再現をしていただけるよう使い慣れた物や馴染みの物を活かし居心地よく過ごせるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室では、昔からの使い慣れた家具、仏壇、鏡台、テレビを自由に配置している。また利用者の作品や家族の写真など思い思いに飾り、居心地よく過ごしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等わかりやすいように、プレートをかけて表示している。入居者様の目線で理解できるように配慮している。		

事業所名	グループホーム 本牧つばき園
ユニット名	りんどう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に融合したホームを理念とし朝の申し送り時や会議時に唱和し、理念の共有を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し縁日や行事に参加したり地域の商店街に買い物に行ったりなど日常的に交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や職員の状況に応じて運営推進会議を始め職員会議などで地域の人々に役立てることはないか話し合い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ただの報告会で終わる事などない様意見や苦情をどの様に活かしていくかを話し合いサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者へ運営推進会議以外にもホームのお便りを届けたりする機械を設けている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が拘束の意味を理解しきれておらず状況によって話し合いを行い身体拘束は行っていない。安全を守る名目での時間帯を決めて玄関などの施錠は行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修などに参加し報告会を行っている。虐待に気付かない虐待言葉使いについても毎月のユニット会議にて見逃しが無いと話あっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は全職員に至っていない。入居者それぞれの必要性をケアマネージャーが中心になって関係者と話し合い勉強会に向けて資料を作成中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書は利用者御家族様と読み合わせを行い不安や疑問点について十分な説明をし理解いただいた上で署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、面会時、運営推進会議を通じて意見を出しやすい状況を設けている。出された意見に対してはどうか対応したのかを次の推進会議で報告してご家族様宛てのお手紙や議事録などで送付している		



本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案をいつでも聞く事のできる様にしており月に1度の会議の場で話し合いを反映している。調理への工夫、柔軟な勤務時間の対応		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての希望を叶える事は難しいが、管理者は定期的に職員に人事評価やヒヤリングを行い、毎年決められた月に昇給や年末年始の手当ての支給、パート契約から契約社員への昇格など行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○JTにより一人ひとりの力量にあった職員の研修や指導を介護事業部全体として研修指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近くにあるグループホームとの交換実習を行ったり、介護事業部3つの施設との勉強会を含め、サービスの向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の場で入居相談表を用いて御本人、御家族の困っている事、不安な事、要望について傾聴し職場の間でも情報を共有し安心して頂けるよう努めています。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や思いを傾聴し毎月の生活の様子を写真や文章のお便りにして情報を共有し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階から職員同士の情報の共有を図りご本人様ご家族様の必要としている支援を見極め柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人と一緒に過ごす中で喜怒哀楽を共にし、御本人様より学びあえる関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな些細な事でも御家族様と情報を共有し喜怒哀楽を共にし御本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも馴染みの人が面会に来られるようになっており、お友達との外出や通い慣れたお店、演劇場などに出掛け関係が途切れる事のない様に支援を行っている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立することなく支えあえる様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した後でも、御家族様の承諾を得てホームの様子をお伝えしたり近況をお手紙頂いて相談や支援に努め関係を断ちきらない取組みに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り、一人ひとりの意思に添えるように支援を行っているが困難な場合は何故困難なのかを説明し、出来るだけ利用者様の意思に沿ったサービスを提供しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中から把握し記録に残し情報を共有する事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録を活用し日頃からの状態の努め一人ひとりの現状の把握に努め毎月のカンファレンスにて情報の交換を行っている。。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員、ケアマネージャーを中心に必要に応じて話し合いを行い月に1度のカンファレンスでそれぞれの意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践を個別に記入し、スタッフ同士で伝達共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な面会、外出、外泊メニューの変更など柔軟なサービスの取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じてボランティア消防、文化施設などを活用し、豊かな暮らしへの支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び御家族の希望を大切にし、受診のサポートを行い月に2度の訪問診療を受けて頂いている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問日の際個々の利用者様の状態報告を行いお互いの情報を交換すると共にケアや疾患などに対するアドバイスなど頂き利用者様へのサービスに繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを通じて日頃の生活の状況や入院に至った経過をふまえて早期退院に向けての話し合いを医療機関に届けソーシャルワーカー、御家族・医師との情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の時から重度化された場合終末期のあり方について説明を文章及び口頭で行い同意を得ています。現在まで終末期、看取りケアに至ったケースはない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の消防職員による応急手当の訓練を受けたり症例別の対応についても訪問看護師により対応の仕方を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間を想定した場合などの避難訓練を行っている。園内の避難経路はあらゆる場所からベランダに出れるようになって3月に近隣の協力を経て夜間避難訓練の予定をしている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し尊敬の気持ちを持った言葉遣いに心掛け、また記録や個人情報の取り扱いにも注意した取り組みを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの願いや思いを尊重し日頃の会話の中で自然と表現ができるように働きかけ自己決定が出来る様支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別な日課はなく出来る限りその日の一人ひとりのペースにあった過ごし方が出来る様に対応しドライブや散歩も職員が行き場所を決めるのではなく、利用者の希望を伺い決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や・整髪・髭剃りだけでなく理美容にてご本人の希望を尊重しカットやパーマを行いお化粧などもできるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事の準備や調理後に片づけを行っている。時々利用者様の希望をつのり外食に出かけるなど、楽しむ事が出来る様支援している。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により献立が立てられており1日のバランスの取れた食事の提供ができています。毎食ごとに摂取量を把握し、柔軟な対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを職員見守りのもと行い、訪問歯科により定期的に口腔ケアを受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の声掛けを行い自立に向けての支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェック表を用いて排便の確認を行うとともに、水分・おやつを繊維の摂れる物に工夫したりと予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は行えていないが、入浴剤や菖蒲、ゆず、りんごなど使ったりして演出し、入りたい時に入りリラックスして頂ける様支援している。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず居室内の温度や加湿器を設置したり清潔な寝具・寝巻きを使用して頂き気持ちのよい安眠や休息が取れるよう工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの疾患や薬の目的、副作用、用法、用量の情報を各ユニットに閲覧しており管理の仕方から服薬の確認までマニュアルを作成し誤薬のないよう意識を高めて		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で利用者のニーズを把握し、嗜好品を買いに出掛けたりお芝居などを見に出掛けたり食事作りをしたり家庭菜園、盆栽をされたり柔軟な対応を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様、地域の方との協力を得て、御本人様の希望に添える様支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常は事業所でお金を管理しているが買い物や外出の時はお金を所持して頂き職員見守りの元、使える様支援している。		



本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	間違い電話のないよう番号の確認や見守りは行うが手紙などのやり取りが自由に出来る様に支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節の花を飾ったり、掲示物を貼り温度や換気に十分気を付け、加湿器を設置し居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルだけでなく和室もあり畳で足を崩して一人で過ごしたり、気の合った利用者同士で過ごす事が出来る様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れたお家のご自身のお部屋をそのまま再現して頂ける様話し合い、居心地よく過ごしていただける様支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	月に1度のカンファレンスで一人ひとりの出来る事やわかる事を把握し、出来ないとあきらめてしまうのではなくどうしたらできる様になるのか話し合い支援している。		

# 目標達成計画

事業所名

本牧つばき園

作成日

平成23年5月1日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	不審者侵入に備え、玄関・ユニットフロアー出入口を施錠。	24時間玄関・フロアーの施錠確認。	不審者侵入防止対策と共に、利用者の行動を見守りフロアー等の出入口にチャイムの設置を検討し、開錠出来る様にする。	3ヶ月
2	35	災害対策の避難行動マニュアル作成、非常用食料の備蓄。施設内の備品転倒防止の見直し。	3月11日の震災を振り返り、各自の行動マニュアル・備蓄品の点検、施設内全備品の転倒防止を行う。	弊社介護事業部全体でも管理者がそれぞれ今回の経験と情報を元にマニュアル作り。備蓄品の確保。備品の転倒を防ぐため、固定を行う。	3ヶ月
3		身体拘束、虐待など含むヒヤリハットの活用。	ヒヤリハットを活用し事故を未然に防ぐ事が出来る様、職員全員へ指導。	ユニットリーダーが中心となり毎月のユニット会議を利用して事故の再発防止に向けた話し合いを設ける。	6ヶ月
4					
5					